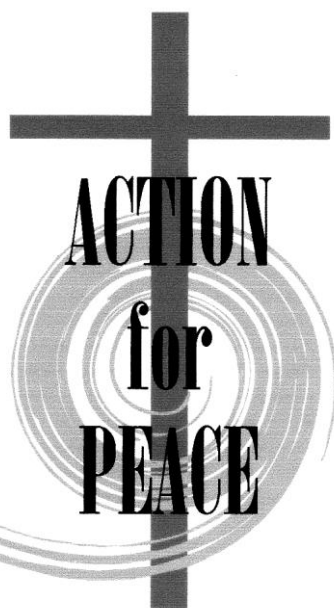


日本バプテスト連盟
憲法改悪を許さない
私たちの共同アクション

ニュースレター

2016年 6月 8日 No. 37

さいたま市南区南浦和 1-2-4 日本バプテスト連盟



先号に続き、2016年5月3日（火・憲法記念日）恵泉バプテスト教会で開催された、バプテスト憲法フェスティバルの報告です。今号では、このフェスティバルでのリレートークをご紹介します。

上尾キリスト教会

富岡 真奈

こんにちは。上尾教会の富岡真奈です。今、4歳ともうすぐ1才になる娘がいます。昨年、9月にクリスチャンのママと一緒にこの缶バッジを作りました。バプテスト連盟の諸教会をはじめ、いろんな方々に手に取っていただき感謝です。

お恥ずかしい話ですが、私はそもそも、政治にはあまり興味がなく、選挙もどうせ行っても行かなくても一緒だろうと思っていた一人でした。学生時代も、公民の授業が大嫌いで先生が言っていることはほとんど聞いていませんでした。しかし、去年、安保法が強行採決され、政治に無関心であることがどれだけ恐ろしいことか知りました。あれよあれよと言う間に戦争ができる国になってしまうことにとてつもない恐怖心と怒りが込みあげてきました。出産後はただでさえホルモンのバランスが不安定になりがちです。せっかく、産後は赤ちゃんと家でのおんびりしようと思っていたのに、テレビで安倍さんを見かける度に、イライラがつのってきました。そして気が付くと、娘をあやしているときでさえ、私の表情は暗く絶望に満ちていました。しか

し、娘はそんなママの気持ちとは裏腹にじーっと私を見つめ、目が合うとにっこにっこしてるんですね。娘の笑顔をみていたら、どこからともなくやる気がわいてきました。子どもは本当に希望そのものです。こんな家の中でイライラしている場合ではない！私がここで文句ばかり言ったって世の中は何も変わらない。何かしなくては、この子たちが今よりももっともっと平和な世の中で生きて行けるように、母ちゃんはがんばるぞ！と思いました。そしてまずはちゃんと意思表示をしようと思い、何か身に付けられるものを作りたくて缶バッジを作成することにしました。「大切な命、戦争しない」ここには書き切れませんでしたが、この言葉の前には、「神さまが与えてくださった」というメッセージが入っています。「神さまが与えてくださった大切な命、戦争しない」

母は強し、という言葉がありますが、母が強くなるのは自然なことだと思います。自分の命をかけて子どもを生み、寝る間も惜しんで育てるのでから。服はいつもよだれと鼻水だらけにされ、アクセサリーをつければひきちぎられ、洗ったばかりの布団に限っておねしょをされ、夜中もしょっちゅう泣いて起こされる、、、いったいつになったら自分の時間ができるんだろうーと思うこともあります。でも子どもは本当にかわいいです。この子のためなら何でもできると思えるほどにかわいいです。子どもは宝です。最近娘が、「子どもはお国のためにあるんじゃない！」と書いてあるうちわで遊んでいました。子どもが持つとかなり説得力があります。子どもはお国のためにあるのではないのです。むしろ国は子供を守らなければいけないのです。

子どもたちを戦場に送ってはいけません。誰の子どもも殺させない。これはママの会のスローガンでもあります。以前デモに参加したときに、目の前を歩いていた5歳ぐらいの子どもがお母さんにこう聞いていました。「ママ、どうして戦争しなくちゃいけないの？」さあ、この問いに大人のみなさんは何と答えますか？この国には、「戦争をしない」という素晴らしいルールがあります。政府はいろいろと変えようとしていますが、なんと愚かなことでしょうか。憲法9条こそ、次の世代に残せる最高の遺産だと思います。これから生きる子どもたちが安心して暮らせるように、母ちゃんはこれからもがんばるつもりです。

最後に思いっきり宣伝させてください。今日も缶バッジを持ってきています。良かったらお買い求めください。全サイズ一つ100円です。小さいものは服につけたりしてもかわいいです。うちの娘も保育園バックにつけていっ

ていますが、お友だちに会うと、「これママがつくったんだよー」と見せびらかして、一生懸命宣伝してくれています。

政治の話をするのってなかなか難しいと思いますが、これならかわいいので、ちょっとプレゼントしたりして、ぜひ話のきっかけづくりに使ってください。ありがとうございました。



調布南教会 いび井樋桂子

「特定秘密保護法に反対する牧師の会」の事務局に仕えておりますいびといます。この働きを通して、あたえられている恵みについてお話します。特定秘密保護法は国が国民に都合の悪い情報を隠すだけでなく、私たちの思想信条や信教の自由を侵す、あってはならない法律です。この法律に対し「政治の問題ではない、牧師の召命にかかわる出来事だ。自分の信仰告白の問題だ」と、多くの牧師が声をあげました。2013年12月6日に「会」が生まれ、賛同者は1週間で400人を超え、現在、70近い教団教派・ミニストリーの574人の牧師・伝道者が賛同しています。8000人といわれる国内の牧師の5%です。バプ連の先生はもちろん、教派を越えて、みなさん「信徒を守る」と立ちあがってくださいました。顔も知らない先生たちが手をつないでくださるという主のみわざを見ることができました。

牧師の会は小さな働きですが、主に導かれドアがパタパタ開いてきました。結成後1カ月で本を発行し、時々声明を出し、オバマ大統領に手紙を書き、国会議員要請に出かけ、記者会見を開き、学習会を持ちました。そのなかで何よりも、右にどんどん傾いていく地の上で、不安と戸惑いをもつ人々にみ言葉を伝え、励ます働きがとても大きいと私は思っています。

私は18歳のときに原水爆禁止の活動を始めました。9年前にイエス様にあってから、自分の考えや行動の根拠が聖書に示されていることに確信を求めるようになりました。とくに、牧師の会の働きのなかで、みことばの乳が本当に私を養ってくれました。共同代表の朝岡勝先生は「神の言葉によってどう生きるのか、は信教の自由の問題の本質である。聖書と信仰は生活の規範であり、聖書とこの世の常識と、二つの規範を使い分けるような生活はいけない」と教えてくださいました。安海和宣先生は、祈り方、主への応答につ

いて、物事の判断基準を聖書でよみとくことを実践的に教え導いてくださいました。この経験が思いもかけない働きに関わるようになった今日、どんなにか支えになったことでしょう。

2014年、集団的自衛権行使容認の閣議決定。そして2015年の安保法制反対のたたかい。立場や考え方の違いを超えてつくられた「戦争させない！9条壊すな！総がかり実行委員会」の活動をすることになりました。現在は「安保関連法に反対するママの会」の事務局を引き受けています。私たちの足元をみればいかがですか。次々に起こる災害と避難生活。就職がない。心の病。家族の介護。多くのひとが苦しんでいるとき、そこに寄り添うのが政治の役割です。それが出来なくて、誰の攻撃から何を守るといえるのか。いのちや平和、安全を守るといふべき、庶民を盾にし収奪の対象とし、一部の軍事産業を肥太らせる。聖書の眼鏡で見れば、まさにマモン（富）とのたたかいになっていることがよくわかります。

大変なたたかいが続くと困難もあります。人の罪がもたらす分断です。無理解、嫉妬、余裕のなさ、疲れからでた小さな傷が、大きく不信・不団結に広がる姿も見ました。でも、一緒に励まし合って進む多くの人の粘り強い努力がありました。総がかり実行委員会には何人かキリスト者がいます。主の和解の精神をもってよき働きをしている姿を何度も目にしました。

教会は心の問題を扱うところだ。政治を語るべきではないというクリスチャンもいます。しかし、そういう人も含めて、イエスキリストを主と告白する自由が、政治によって妨げられるような、戦前の暗黒を繰り返す時代になっていることは自民党の改憲草案に明確に示されています。ローマ13章「上に立つ優れた権威に従いなさい」。私はこの言葉に従います。旧約聖書には、神の教えに背いた権威にたいして抵抗した人が沢山登場します。神の召しに背いた権威がキリストの平和を脅かし、「殺してはならない」の戒律を破ろうとしているこの時、この日本に植えられたクリスチャンとして、地の塩の役目をはたしたいと祈ります。「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから」「あなたがたは地の塩です」「あなたがたは世界の光です」とイエス様は語られました。神を神としない世で、塩けを失わずに生きることは、時として摩擦や衝突に直面します。でも、孤軍奮闘するのではなく、ともにいてくださる神様に導かれながら、主の平和を実現するわざにたずさわっていくのです。